

# 「令和元年度ふくしま『学びのスタンダード』推進事業」推進地域の取組

パイロット校名	下郷町立下郷中学校、下郷町立榎原小学校
推進協力校名	下郷町立旭田小学校、下郷町立江川小学校

## 下郷町四つ葉のクローバープランをもとにした 「学びのスタンダード」推進事業（3年次）

下郷町では児童生徒に確かな学力を身に付けさせるために、平成17年度から「四つ葉のクローバープラン」事業を継続して進めている。「学びのスタンダード」推進事業も、この組織をもとに町内の小・中学校が連携して推進し、今年度は3年目の取組を進めてきた。

### 1 推進地域における「授業スタンダード」の活用について

#### (1) 日々の授業づくり、授業改善のよりどころとしての活用

- ① 授業における課題の改善のためのヒントとして、「授業スタンダード」の手立てを日々の授業に取り入れ、授業の充実に向けて活用してきた。
- ② 研究授業においても、「授業スタンダード」の視点を取り入れた授業づくりを行い、それを指導案に明記して授業を実践した。事後の研究協議においても「授業スタンダード」を話し合いの視点として活用し、授業についての協議を進めた。

授業計画の抜粋と指導案の注釈。注釈には「授業スタンダード」の視点（例：「11.『』でグループをまわりながら、友達と関わりが深まるように、話し合いや意見を共有しながら進めたい。」）が明記されている。黄色い吹き出しで「授業スタンダード」の視点を明記した箇所が強調されている。

#### (2) 「チェックシート」を活用した授業の振り返り

- ① 年度当初に「授業スタンダード」チェックシートを用いて授業のチェックを行い、授業の課題や学校全体としての強みと課題を洗い出し、重点項目を決めたり、新たな項目を付け加えたりして自校化を図った。自己チェックを年間5回行い、日々の授業を振り返ることで授業改善に役立てた。
- ② 研究授業においては、参観者が「授業スタンダード」の視点で授業をチェックすることをねらいとして活用した。授業者は、参観者からの客観的な評価をもとに自分の授業を振り返り、課題を明らかにした。
- ③ 推進教師が町内各校の「授業スタンダード」チェックシート結果を集約し、推進地域としての傾向を分析し、推進会議や「学びのスタンダード」だよりで強みや課題を共有した。

【下郷町中学校 チェックシートの結果(第3回)】

番号	項目	第3回 各校の結果				初回	第2回	第3回	4校平均	備考
		下郷中	榎田小	江川小	榎原小					
1	単元・題材の構想を明確にしている。	3.20	3.00	3.57	3.00	3.25	3.20	3.18		
2	単元のねらいを明確にしている。	3.40	3.30	3.86	3.44	3.30	3.61	3.50		
3	授業の計画や学習に向かう構えを明確にしている。	3.10	3.20	3.14	3.56	3.39	3.31	3.25		
4	子どもの思いや思い違いを明確にし、学習意欲を高めている。	2.70	2.90	3.00	2.67	2.87	2.91	2.72	課題	
5	学習のねらいを達成・解決の計画や実施している。	2.90	2.90	2.86	2.89	2.61	2.83	2.89		
6	板書指導で子どもを驚かし、意欲を高めている。	2.90	3.10	3.57	3.22	3.11	3.20	3.20		
7	ペア学習やグループ学習を取り入れる目的を明確にしている。	3.20	3.11	3.43	3.33	2.89	3.23	3.27		
8	単元のねらいを達成するように話し合いをコーディネートしている。	2.60	2.67	3.43	2.78	2.59	2.90	2.87		
9	単元で学習したことを積極的に、振り返りを実施している。	3.10	2.70	2.71	2.78	2.64	2.80	2.82		
10	新たな学びのねらいや課題を明確にしている。	2.80	2.30	3.14	2.78	2.57	2.78	2.78	課題	
11	授業の流れがわかり、構造的な事象になっている。	2.80	2.80	3.29	2.78	2.68	2.85	2.87		
12	授業に意欲を持たせられている。	2.70	2.40	3.00	2.56	2.56	2.69	2.67	課題	
13	ノート指導を継続的にしている。	2.60	2.90	3.14	2.78	2.65	2.81	2.86		

番号	項目	第3回 各校の結果				初回	第2回	第3回	4校平均	備考
		下郷中	榎田小	江川小	榎原小					
1	授業研究会に積極的に参加している。	2.40	3.22	4.00	3.67	3.21	3.40	3.32		
2	教科や学年の枠を超えて、学び合っている。	2.60	3.00	4.00	3.33	3.32	3.31	3.23		
3	互恵授業を行うなど、日常的に授業研究をしている。	2.40	2.67	3.14	2.44	2.33	2.58	2.66	課題	
4	内容講師の授業や校内研修の成果を共有し、日々の授業に生かしている。	2.60	2.66	3.71	3.56	2.80	3.14	3.19		
5	「授業スタンダード」を積極的に活用している。	2.90	3.00	3.71	3.22	2.86	3.15	3.21		

◎第3回の4校平均を見ると、各項目1周より2周以上高得点になっており、「授業スタンダード」推進による授業づくりの効果が表れていることがわかる。「授業スタンダード」の活用についてのポイントも併せて示している。  
 ◎授業づくりにおいては、子どもの「思い」や「思い違い」からの学習課題の設定、事後・構造的な発展のコーディネート、新たな学びのねらいや課題を明確にするためのポイントが、特に注目され、課題である。  
 ◎互恵授業のポイントが低い学校が多く、部分参観や授業後に指導を見せたりすることなど、互恵授業の持ち方を工夫しながら教員同士の学び合いを進めていきたい。

#### <チェック結果の集約>

## 2 パイロット校の取組内容

### (1) 指導体制の工夫について

#### ① 中学校国語科・数学科における「タテ持ち」(パイロット校Ⅰ：下郷中学校)

国語科、数学科において「タテ持ち」の指導体制とした。国語科では、2名の教員が1学年から3学年までの国語科の授業を担当し、学年の系統性を捉え、中学校3年間を見通した指導ができるようにした。具体的には右図のような指導体制をとった。

学年	1組	2組
1年	教師A	教師B
2年	教師A	教師B
3年	教師A	教師B

<中学校国語科の「タテ持ち」>

学年	1組		2組	
1年	教師A(T1)		教師C(T1)	
	教師B(T2)		教師B(T2)	
2年	教師C(T1)		教師C(T1)	
	教師B(T2)		教師B(T2)	
3年	Aコース	Bコース	Cコース	
	教師A	教師B	教師C	

<中学校数学科の「タテ持ち」>

数学科では、推進教師及び町雇用を含めた3名の数学科教員で「タテ持ち」の指導体制をとった。個の実態に応じた指導ができるように、1・2年生をT・Tによる指導体制とし、3年生は習熟度別による指導体制とした。具体的には左図のような指導体制をとった。

#### ② 小学校算数科における「教科担任制」(パイロット校Ⅱ：檜原小学校)

第4学年・第5学年の算数科を推進教師による教科担任制とした。教師の専門性を生かした指導及び児童の実態に応じたきめ細かな指導を行うことができるよう、推進教師をT1、学級担任をT2とするT・Tによる指導体制とした。

学年	T1	T2
4年	推進教師	4年担任
5年	推進教師	5年担任

<小学校算数科の「教科担任制」>

### (2) 授業づくり相談会(ざっくばらん相談会)の実施(パイロット校Ⅱ：檜原小学校)

研究授業および日々の授業づくりについて、校内で授業づくり相談会を実施した。パイロット校Ⅱ檜原小学校では、授業づくり相談会を「ざっくばらん相談会」と呼び、研究授業に向けては、指導案の作成前の構想段階や作成途中に相談会を複数回実施した。教員同士でざっくばらんに意見を交わし、授業者とともに授業づくりについて考えてきた。 ※ 以下「ざっくばらん相談会」の例

#### <1回目の相談会>

指導案作成の構想段階に実施し、授業者と参加者で教科書や指導書を確認しながら授業のイメージづくりを行った。

#### <2回目の相談会>

指導案の作成途中に実施し、1回目の相談会をもとに授業者が考えてきた「授業の流れ」について話し合いを行った。「授業スタンダード」を活用し、授業の流し方や手立てについて具体的にした。この2度の相談会を経て、指導案を完成させた。



<ざっくばらん相談会>

(様式1)

### (3) 域内授業づくり講演会の開催

福島大学准教授の坂本篤史先生をお招きし、下郷中学校を会場に授業づくり講演会を開催した。「学び続ける態度を育てる『主体的・対話的で深い学び』」という演題で、新学習指導要領で大切にしたいことや実践例を通じたこれからの授業づくりの在り方等について、ご講演いただいた。



<域内授業づくり講演会>

### (4) 公開授業研究会の開催

パイロット校Ⅰ（下郷中学校）では、11月12日に国語科（1年2組）、数学科（2年2組）の2教科を公開し、パイロット校Ⅱ（檜原小学校）では、11月22日に、国語科（2年生）、算数科（4年生）の2教科を公開した。事後研究会では、域内外から参会の先生方と「授業スタンダード」を活用した授業改善について協議した。

## 3 推進協力校の取組内容

### (1) パイロット校と連携した、「授業スタンダード」の活用

パイロット校と連携し、「授業スタンダード」を活用した授業実践を行うとともに、チェックシートによる評価を生かした授業改善を行った。

### (2) 推進教師の活用

町内小・中学校の校内授業研究会の事前・事後研究会において推進教師を活用し、授業づくりについて一緒に考える機会とした。

## 4 3年間の取組から見た成果と課題

### (1) 成果

- ① 「授業スタンダード」を活用した授業づくりを行うとともに、チェックシートによる評価を定期的実施することで、授業づくりにおける課題が明確になり、授業改善に向けた意識が高まった。授業を改善しようとする意識の高まりによって、授業の質的向上が図られた。
- ② 中学校における「タテ持ち」、小学校における「教科担任制」を行ってきたことにより、内容の系統性を踏まえた指導を行うことができ、授業の充実につながった。また、学年の枠を越えた児童生徒理解につながり、教師のチーム力が高まった。
- ③ 小・中一体となった授業研究会を開くことで、小学校、中学校の教員が互いに授業を参観する機会をもつことができ、指導内容や方法、生徒指導面での連携など地域の児童生徒をバックアップする体制を整えることができた。

### (2) 今後の課題

- ① 「タテ持ち」や「教科担任制」を充実させていくためには、指導の内容や方法などについて共通理解を図り、情報交換をしていくことが必要である。そのための時間確保の工夫が課題である。
- ② 「授業スタンダード」の活用を更に充実させ、小学校と中学校で授業づくりについて共に研修を進める機会を確保するなど、小・中の連携を一層深めていきたい。